

【大学受験 国語】古文・漢文 まとめプリント 完全保存版

◆ 助動詞識別・敬語・頻出単語 100 語・和歌修辞法・漢文句形 30 選・読解手順を完全収録。

● 赤・太字部分は必ず覚えましょう。赤シートで隠して確認しよう！ 氏名：_____

第 1 部 古文 助動詞の完全整理

◆ 主要助動詞一覧【意味・接続・活用型】

助動詞攻略の 3 原則

- ①接続（何形に付くか）を覚える
- ②意味の数を覚える（1 つか複数か）
- ③活用型を覚える（どう変化するか）→ 識別問題に直結する

助動詞	接続	活用型	意味（数）	現代語訳・識別ポイント
む（ん）	未然形	四段型（変則）	推量・意志・勧誘・婉曲・適当（5 つ）	～だろう／～しよう／～しないか／～ような／～がよい
ず	未然形	特殊型	打消（1 つ）	～ない（現代語の「ない」に相当）
き	連用形	特殊型	過去（1 つ）	～た（直接体験した過去。「けり」との区別が重要）
けり	連用形	ラ変型	過去・詠嘆（2 つ）	～た（間接体験）／～だなあ（詠嘆）
たり	連用形	ラ変型	完了・存続（2 つ）	～た・～てしまった／～ている・～である
り	サ変未然・四段命令形	ラ変型	完了・存続（2 つ）	～た／～ている（「たり」より古い形）
つ	連用形	下二段型	完了・強意（2 つ）	～た・～てしまった／きつと～（確述）
ぬ	連用形	ナ変型	完了・強意（2 つ）	～た・～てしまった／きつと～（確述）※「ず」の連体形と区別！
べし	終止形（ラ変は連体形）	形容詞型	推量・意志・可能・当然・命令・適当（6 つ）	文脈判断。「べし」＝「must/should/can」の 3 語分を担う
まし	未然形	特殊型	反実仮想・ためらいの意志（2 つ）	もし～だったなら～だったろう／～しようかどうか
らむ	終止形（ラ変は連体形）	四段型	現在推量・原因推量（2 つ）	今ごろ～しているだろう／～だから～のだろう
けむ	連用形	四段型	過去推量・過去の原因推量（2 つ）	～しただろう／～だったから～だったのだろう
めり	終止形	ラ変型	推定・婉曲（2 つ）	～ようだ（視覚的推定）／～ような（婉曲）



自発：自然に～の気持ちになる。感情・心理を表す動詞に付く。 例：「思はれる」→ 自然と思われる
尊敬：主語が高貴な人物。「～なさる・～される」と訳す。 例：「帝の聞こしめされる」→ お聞きになる
△ 判断の順序：まず受身を試みる → 不自然なら可能 → 感情動詞なら自発 → 主語が高貴なら尊敬

▶ 「べし」の識別（推量・意志・可能・当然・命令・適当）

推量「～だろう」：主語が三人称。「きっと～するだろう」
意志「～しよう」：主語が一人称。「～するつもりだ」
可能「～できる」：「～することができる」と訳せる場合
当然「～すべきだ・～のはずだ」：道理・義務を表す。最もよく使われる意味。
命令「～せよ」：命令・指示の文脈で使われる
適当「～がよい・～するのが適切だ」：勧めや提案の文脈で使われる
△ 迷ったら「当然」か「推量」で対応できることが多い。文脈最優先！

▶ 「き・けり」の識別（どちらも過去だが意味が違う）

き（直接体験の過去）：話者が自ら体験・経験した過去の出来事を表す 例：「昨日見き」→ 昨日（私が）見た
けり（間接体験の過去・詠嘆）：伝聞・回想による過去、または「～だなあ」という詠嘆 例：「昔ありけり」→ 昔あったそうだ・あったのだなあ
△ 「けり」は和歌の末尾に置かれると詠嘆（～だなあ）になることが多い

▶ 「たり・り」の識別（どちらも完了・存続）

たり：連用形に接続。完了（～た・～てしまった）または存続（～ている・～てある）
り：サ変未然形またはの四段命令形に接続（「さみしい」で覚える：サ変未然・ミ（実は四段命令））
覚え方：「さ・み・し・い」＝サ変未然形・四段命令形に付くのが「り」 連用形に付くのが「たり」



第3部 古文 頻出単語 100 語・重要文法事項

◆ 大学受験 古文頻出単語 100 語【現代語との意味の違い】

古語	意味・ニュアンス・注意点	古語	意味・ニュアンス・注意点
あいなし	つまらない・不都合だ・気に食わない	あかず	飽きない・物足りない（「飽く」の未然形＋ず）
あからさま	ちょっとした間・一時的に（現代：露骨に、とは別）	あくがる	さまよう・うわの空になる・魂が抜ける
あさまし	驚きあきれる・意外だ・見苦しい（程度の強い感情）	あだなり	浮気だ・誠実でない・はかない（「あだ」＝無駄・誠実でない）
あはれ	しみじみとした感動・趣がある（最重要語！）	あいなし	道理に合わない・不都合・かわいくない
いかで	どうして～か・ぜひとも～したい（疑問・願望）	いとほし	かわいそうだ・気の毒だ・愛しい（同情・愛情）
いみじ	非常に～だ（程度が強い）・すばらしい・ひどい（文脈で正反対になる）	うつくし	かわいらしい・愛らしい（小さいもの・幼いものへの愛情）
うとし	疎遠だ・よく知らない・距離がある	おぼゆ	思われる・感じられる・似る・覚える（受身・自発の意味含む）
おほけなし	身の程知らずだ・分不相応だ（謙遜表現に使う）	おとなし	分別がある・大人びている・落ち着いている（現代：静か、とは異なる）
かしこし	恐ろしい・畏れ多い・賢い（文脈で意味が変わる要注意語）	かなし	悲しい・愛しい・かわいい（文脈で正反対の意味！）
けしき	様子・気配・表情・兆し	こころざし	気持ち・愛情・贈り物・志（多義語）
こころにくし	奥ゆかしい・思慮深くて気品がある（「憎い」の意味ではない）	こころもとなし	不安だ・待ち遠しい・はっきりしない
こそあれ	そうであるが・～ではあるが（逆接の意味で使われる係り結び）	さうざうし	物足りない・寂しい（「騒々しい」の意味ではない！）
さかし	賢い・利口だ・しっかりしている	さすがに	そうはいってもやはり・さすがに（現代と同様だが古文では逆説的に使う）
しのぶ	こらえる・忍び耐える・人目を忍んで隠す	すずろなり	なんとなく・思いがけない・むやみに（「そぞろ」とも）
すさまじ	興ざめだ・殺風景だ・不気味だ（現代：激しい、とは異なる）	せちなり	切実だ・ひたすらだ・熱心だ
たのし	豊かだ・楽しい（現代と近いが「豊か」の意味が強い）	たまふ	～なさる（尊敬の補助動詞）・お与えになる（本動詞）
つきづきし	似つかわしい・ふさわしい・調和している	つらし	冷たい・薄情だ・つらい（現代：つらい、と近いが「冷淡」の意味が中心）
つれなし	そっけない・平然としている・冷淡だ	ところせし	窮屈だ・場所をとる・大げさだ
なかなか	かえって・中途半端に・なまじっか（打消文に注意）	なつかし	慕わしい・なごりが惜しい・親しみやすい（現代：懐かしい、と異なる）
なやむ	病気になる・苦しむ・悩む	ねんごろ	親切に・丁寧に・熱心に
のどかなり	穏やかだ・ゆったりしている・のどかだ	はしたなし	不都合だ・中途半端で体裁が悪い・恥ずかしい
はかなし	はかない・頼りない・つまらない・ちょっとした	ひがひがし	ひねくれている・道理に外れている・間違っている
ふびんなり	不憫だ・かわいそうだ（現代語の「不憫」と同じ）	まめ	誠実だ・地道だ・実用的だ（名詞：豆、の意味もある）
まめやか	誠実だ・本気だ・まじめだ	めでたし	すばらしい・立派だ・めでたい（現代：おめでたい、に意味が絞られた）
めづ	愛でる・感嘆する・ほめる・かわいがる		
ものし	物事が多い・ある・すばらしい（形容詞として使われる）		

